
影道

白虎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

影道

【Nコード】

N2204C

【作者名】

白虎

【あらすじ】

夏の夕暮れ、男は笑顔で家路に着こうとしていた。

夏の夕暮れ。気温は三十二度。蝉の鳴き声に車のクラクション。薄紅色の空の下、いつもの並木通りを歩く。

子供は元気に走り回っている。

首を伝う汗が、シャツを濡らす。

男を照らす夕日は、少しずつ地面の下へ潜ってゆく。

帰宅途中であろうこの男。どこか嬉しそうに歩を進めている。

「あいつ、喜ぶかな」

そう呟いた男の顔は優しい笑顔。

手には何やら袋をぶら下げている。中身は小さそうだ。そんな男に、二人の子供が駆け寄ってきた。

「勇気君のおじさん、こんにちは。勇気君の風邪、まだ治らないの？」

勇気とは、男の子供の名前だろう。

クラスメイトが風邪を心配して様子を伺ってきたのだ。

「いつも勇気と仲良くしてくれてありがとうな。勇気なあ、もうちょっと掛かりそうなんだ。治ったら、また遊んでな」

男の対応は至ってにこやかだった。家族思いの、良い父親なのだろう。

「うん！ 友達だもん」

「じゃあ早く治して遊ぼうって言うておいて下さい」

そう言って、二人はまた駆けだした。

「ありがとう」

男も小さく呟くように返すと、また歩き出した。

やがて、一軒の家の前にたどり着くと、ポケットから鍵を出した。ここが男の家なのだろう。

男は鍵を開け、家に入る。

すると、男の頭の中に声が響いた。

（お父さんお帰り）

子供の声。

「ただいま、勇氣。今日はお土産があるぞ」

男は嬉しそうに子供の顔の横に袋を置いた。

（これ何？ 見ていい？）

「ああ、いいぞ」

机の上には一枚の紙が置いてあった。

子供の字で、何かが書いてある。

（これ、何？）

文の最初の文字は、漢字がわからなかったのだろう。

『いしょ』

「勇氣、お前を自殺するまでいじめた奴らの……心臓だよ」

男の顔は笑顔。横たわる子供の顔を見つめていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2204c/>

影道

2010年10月13日02時41分発行